

そのMCHC高値、本当に寒冷凝集素症？—診断精度を高める検査戦略—

河野 浩善

広島市立北部医療センター安佐市民病院 臨床検査部

寒冷凝集素症は赤血球恒数の異常、特にMCHC高値を契機に疑われることが多い。一方で、MCHC単独では偽陽性例が多く、スクリーニング指標としての診断精度には限界がある。当院では、MCHCに加え、新たなスクリーニング指標であるDLT-RBCを組み合わせることで、診断精度の向上を検討してきた。本講演では、その検討結果を紹介するとともに、寒冷凝集素症の効率的なスクリーニング法と、検査室で遭遇するピットフォールへの実践的な対応について症例を交えて解説する。

Primary Cold Agglutinin Diseaseの診断 —鑑別を要する症例をどう考えるか—

浅野 直子

長野県立信州医療センター 遺伝子検査科

寒冷凝集素症（Cold Agglutinin Disease: CAD）は、寒冷凝集素による補体介在性溶血を特徴とする疾患である。Primary CADは独立したクローン性B細胞性疾患として位置付けられているが、一方で慢性リンパ性白血病（CLL）やリンパ形質細胞性リンパ腫（LPL）との鑑別に苦慮する症例も存在する。本講演では、当施設におけるPrimary CAD症例の検討結果をもとに、骨髓病理、フローサイトメトリーおよび遺伝子検査の所見を交えながら、鑑別診断の実際と統合的診断の重要性について考察する。